

### 芸術祭優秀賞(関東参加公演の部)

#### 有限会社名取事務所

##### 「少年Bが住む家」の成果

韓国の女性劇作家イ・ボラム氏の戯曲を眞鍋卓嗣が演出。親友を殺してしまった14歳の少年と加害者家族が社会から孤立する闇を描き、少年の犯罪と再生をテーマに罪と罰、赦しの問題に肉迫した。日本の家族に置き換えても起こりうる普遍的な作品で、登場人物の葛藤をすくい取る丁寧な演出とリアルな体温を感じさせる俳優の演技で緊迫感のある舞台を創出した。

<受賞者コメント：代表 名取敏行>

感慨深いものが有ります。1976年第31回に劇団俳小が「あの人は帰ってこなかった」で優秀賞を頂きました。その当時私は音響のスタッフでした。演出家早野寿郎の喜びは非常に大きいもので、恩師がそれほど喜ぶものならいつかこの賞を獲りたいと切望しておりましたが、今回それを手にすることが出来ました。喜びと同時に良い報告が出来ます。言わずもがなですが芝居は全員の成果です。本当の家族の様に過ごしたキャスト・スタッフにあらためて感謝申し上げますと共に喜びを分かち合いたいと思っております。



撮影者:坂内太

### 芸術祭優秀賞(関東参加公演の部)

#### 株式会社文学座

##### 文学座公演「五十四の瞳」の成果

瀬戸内海の小島にある朝鮮学校を舞台に教師、卒業生とその家族が立場の違いから時にぶつかり合いながらも我が道を模索して懸命に生きる姿を1948年から20年にわたって描き出した。日本の戦後を小さな島に凝縮させる作劇のうまさや松岡依都美、頼経明子、たかお鷹、山本道子ら俳優の個性を引き出す演出の冴えを感じた。

<受賞者コメント：演出 松本祐子>

歴史ある賞を頂戴し、誠にありがとうございます。ことに昨年は3月に上演中だった公演を中止にして以来、コロナ下でやっと再開できた東京公演ということもあり、稽古場に集う座員のあふれる演劇への思いが滾るような舞台となりました。その思いが客席に伝わったことのお墨付きをいただけたと、座員一同感激しております。



撮影者:宮川舞子



撮影者:宮川舞子

### 芸術祭優秀賞(関西参加公演の部)

#### 宝塚歌劇団 月組

##### 宝塚歌劇 月組公演「WELCOME TO TAKARAZUKA ー雪と月と花とー」「ピガール狂騒曲」の成果

“雪月花”をテーマにした華やかな日本もののレビューと、シェイクスピア原作「十二夜」をベースに舞台を20世紀初頭のパリのレビュー界に置き換えたミュージカル作品の2本立て。歌舞伎界の人間国宝・坂東玉三郎が宝塚歌劇を初監督したレビューは、植田紳爾が演出を手掛け、日本舞踊と洋楽の融合、明るさと暗闇を使った印象的な場面を統率の取れた踊りで魅せた。芝居も原作を卒なくアレンジし軽快でコミカルな作品となった。ショーと芝居の比重もバランスよく出来栄も見事。第106期生のお披露目も舞台に華を添えた。

<受賞者コメント：宝塚歌劇団 一同>

この度は芸術祭演劇部門優秀賞を頂戴し、誠に有り難く存じます。世界が未曾有の出来事に見舞われる中、私共宝塚歌劇団も通常通りの形態での公演は難しく、様々な変更を余儀なくされた舞台づくりとなりましたが、本作品に携わって下さった方々、そして宝塚歌劇を支持し応援して下さいの皆様のお蔭を持ちまして、この様な素晴らしい賞を受賞する栄誉に預かることが出来たと思っております。まだまだ先の見えない毎日ではありますが、本年に掲げました「明日への希望を輝きに変えて」というフレーズの通り、今後も皆様に夢と希望、明日への活力を感じて頂ける、宝塚歌劇ならではの舞台づくりを目指して邁進して参りたいと存じます。



©宝塚歌劇団



©宝塚歌劇団

### 芸術祭優秀賞(関西参加公演の部)

#### 瓦照苑

##### 照の会 ちかの会 大阪公演「蝉丸 替之型 琵琶之会釈」の成果

盲目ゆえ逢坂山に遺棄される蝉丸。蝉丸の謡は、悲嘆さの下に、来世を頼む明るさを響かせた。ワキや狂言は淡々とした演技で蝉丸の演技を引立てた。大小の鼓は、彷徨する逆髪の登場を物狂らしく彩った。笛や地謡は、逆髪と蝉丸が浄化されてゆく流れを作った。負の運命を悲嘆せず、清々しく受け入れるさまが、作品全体にわたって表現された。

<受賞者コメント：代表 上田拓司>

この度は芸術祭優秀賞を頂き、誠にありがとうございます。このような状況の中、ご来場下さいましたお客様、そして出演者、関係者等、お力添えを頂きました皆様に改めて感謝申し上げます次第でございます。これからも多くの方々に伝統文化、能楽について知って頂くことができるよう、日々努力して参ります。



### 芸術祭新人賞(関東参加公演の部)

#### 高野 菜々

##### 音楽座ミュージカル「SUNDAY(サンデイ)」における演技

理想的な家庭を築いたと自負する女性ジョーンが、旅先の出会いから自らの人生に向き合い、その真実に目覚める姿を、心の奥底を焙り出す確かな演技、圧倒的な歌唱力で演じ切った。これまで薄幸の少女などの役が多かったが、成人した子を持つ人妻という新たな役柄に挑戦。令和のミュージカル界を牽引することを期待したい。

<受賞者コメント>

音楽座ミュージカルに所属して12年。今回の受賞はカンパニーにとっても最大のエールとなりました。初舞台から未熟な私を育て、この作品に出逢わせてくれたこのカンパニーには心から感謝しています。ここからがようやくはじまり。明日につながる一歩となるような作品を生み出し続けられるよう、これからも挑戦し真摯に励んでまいります。



### 芸術祭新人賞(関西参加公演の部)

#### 原田 諒

##### 宝塚歌劇 月組公演における「ピガール狂騒曲」の脚本・演出

シェイクスピア喜劇「十二夜」の枠組みを、ベル・エポックのパリのレビュー界に巧みに落とし込んだ。主演男役が二役で挑んだ兄妹をはじめ、レビューを取り巻く人物たちの軽妙な演技を十分に引き出した演出が印象に残る。宝塚歌劇の源流にあるレビュー文化に深い敬意を払いつつ、自立するヒロインの造形に現代性を込めた脚本も高く評価したい。

<受賞者コメント>

この度は名誉ある芸術祭演劇部門新人賞を頂くこととなり、驚きと共に身の引き締まる思いであります。コロナ禍の影響により演出変更を余儀なくされ、これまでに経験したことのない困難な状況の中での作品づくりでしたが、ひたすらひたむきな出演者とスタッフの皆様、そしてご観劇くださいましたお客様のおかげで、このような身に余る賞を頂いたのだと心より感謝致しております。宝塚歌劇という世界に類を見ない演劇が百有余年の歴史を紡ぐことが出来たのも、この絆があればこそ改めて痛感する次第です。時に不要不急という言葉で括られてしまうエンターテインメントの仕事ですが、演劇の存在意義とそれが持つ強い力を信じ、伝統と挑戦を忘れることなくお客様に楽しんで頂ける舞台をお届け出来るよう、今後も精進して参りたいと思っております。



©宝塚歌劇団

# 令和2年度(第75回)文化庁芸術祭賞贈賞理由

## 音楽部門

### 芸術祭大賞(関東参加公演の部)

#### 藤本 昭子

##### 「第17回藤本昭子演奏会」の成果

地歌箏曲における屈指の名曲「残月」と「八重衣」のみによるプログラムで、藤本昭子が真価を発揮した。自らの歌・三弦を核に、曲ごとに異なる箏と尺八の助演者を配し、それぞれの作品の魅力を色鮮やかに描き出した。ことに二代米川文子を交えた「八重衣」は歴史的名演というべきで、藤本の揺るぎない姿勢と実力を印象づけるものとなった。

##### <受賞者コメント>

コロナ禍の続く中、不退転の決意で開催した4年ぶりのリサイタル公演でした。現代最高の箏曲家米川文子先生にご出演を賜り、三曲界を第一線で牽引する皆様と古典芸能の生きた演奏をお届け出来たことは、私にとりましてこの上ない幸せでした。この度の身に余る受賞を機に、今後もひたすらこの道に励んで参りたく存じます。



### 芸術祭優秀賞(関東参加公演の部)

#### 竹本 越孝

##### 「第18回竹本越孝の会」の成果

「西鶴と近松」というタイトルのもと、鶴澤津賀寿が新たに曲付けした西鶴作《暦》の二段目・三段目と近松作《国性爺合戦》「楼門の段」をとりあげて、浄瑠璃の歴史に意欲的に取り組んだ。《暦》では節事の魅力を追求し、《国性爺合戦》では、月明かりのなかでの親子の対面と緊迫した状況を、自身の声質と表現の特徴を生かして見事に語り描き、観客の心をつかむ芸の力を示した。

##### <受賞者コメント>

「義太夫の原点をたずね、可能性を探ってみたい」そんな私の思いを受け止めご指導下さった先生方。井原西鶴初の浄瑠璃『暦』で節事の作曲をお願いした三味線の鶴澤津賀寿様のご尽力。そしてコロナ禍にもかかわらず熱く応援して下さいましたすべての皆様に支えられ、栄誉ある賞を賜りましたことを心より感謝申し上げます。さらなる芸道の追求と女流義太夫の未来を目指し精進する所存でございます。



### 芸術祭優秀賞(関西参加公演の部)

#### 公益財団法人 川西市文化・スポーツ振興財団

##### 第29回みつなかオペラ「満仲～美女丸の廻心」の成果

みつなかオペラは、地元川西市の民話に基づく景山伸夫のオペラ「満仲～美女丸の廻心」の再演を通して、創作オペラの醍醐味と楽しさを存分に味あわせてくれた。それは長年オペラ制作で培ってきた劇場の総合力の賜物であり、優れた上演の成果は優秀賞に値する。

##### <受賞者コメント：演出家 井原広樹>

第29回みつなかオペラの作品として、ホール名の由来でもある、源氏発祥の地 川西の雄、多田満仲公を題材に、我々を長らくリードしてこられた、作曲家景山伸夫先生による本作が、オペラとしての価値を再評価されつつ、我々の最近の活動をも含めたプロダクション全体を受賞理由とした今回の受賞にお導きくださった事は、平素より無私のワンチームを是とする我々にとって、この上ない大いなる喜びである。



# 令和2年度(第75回)文化庁芸術祭賞贈賞理由

## 音楽部門

### 芸術祭優秀賞(関西参加公演の部)

#### 菊寺 智子

##### 「菊寺智子 三絃リサイタル」の成果

既に上方舞の地方として超売れっ子の面目躍如たる演奏会であった。抜群の歌唱力と透明感のある声質を生かしたプログラムで構成。「浪花十二月」ではツレ弾きの華麗なバチさばきと相まって客席を市井の世界に誘った。後半は一転、端歌物の名曲「ぐち」と「ゆき」で女心の悲哀さを切々と謳い上げ、その描写力で聴衆を魅了した。今後間違いなく上方の地歌界を牽引していく逸材である。

##### <受賞者コメント>

この度は文化庁芸術祭優秀賞を賜りましたこと誠に有難く、身に余る光栄に存じます。コロナ禍でのリサイタル開催は苦渋の決断ではありましたが、出演を快諾して下さいました菊原光治先生・菊萌文子様、スタッフのサポート、そして温かく応援して下さいました方々のお蔭のことと感謝致しております。今後は、この賞に恥じぬよう尚一層の精進・努力を重ね、上方の芸を紡いで参る所存でございます。



### 芸術祭新人賞(関東参加公演の部)

#### 上江 隼人

##### 「上江隼人 バリトン・リサイタル 2020」の成果

上江隼人は、得意とするヴェルディのオペラ・アリアのみで構成された意欲的なプログラムを歌いきり、その豊かな表現力、明晰なディクชัน、品格あるスタイル感で、今後の日本のオペラ界の屋台骨を支えていく実力を持つバリトンであることを示した。

##### <受賞者コメント>

この度は名誉ある賞を頂戴し、大変光栄に思っております。現在のコロナ禍においては、音楽家もかなり厳しい状況にあります。しかし今こそ演奏する事に使命感を持って取り組み、試行錯誤しながら進む道を切り拓いて行きたいと考えます。受賞に際し、いつも支えてくれているスタッフ、応援して下さいる皆様に心から感謝すると共に、ますます精進して参ります。



### 芸術祭新人賞(関西参加公演の部)

#### 川崎 貴久

##### 「川崎貴久 尺八ソロリサイタル ～千態万様～」の成果

20世紀後半に隆盛を極めた現代邦楽における初期の3曲、中期の1曲と、異なった視点による21世紀の尺八音楽1曲を並べた意欲的なプログラム。尺八独奏のために作られた音楽の源流を虚無僧の本曲に求めつつ、音楽様式と表現技法の変遷を、確かな演奏技術によって辿り、尺八本曲の未来に様々な可能性があることを示した。

##### <受賞者コメント>

此の度は、文化庁芸術祭新人賞受賞の栄誉に浴し、身に余る光栄に存じます。本公演は、恩師三橋貴風より受け継ぎました「古典本曲」を伝承しつつ、未来の古典となるべき「現代の本曲」を繕ぎ、尺八という楽器と音楽の可能性を追求したいとの想いから開催を致しました。この受賞を励みに、より一層の精進をして参る所存でございます。今後ともご指導ご鞭撻の程、何卒宜しく願いを申し上げます。



# 令和2年度(第75回)文化庁芸術祭賞贈賞理由

## 舞踊部門

### 芸術祭優秀賞(関東参加公演の部)

#### 東京バレエ団

##### 東京バレエ団 モーリス・ベジャール振付 「M」の成果

20世紀バレエの巨匠モーリス・ベジャールが、三島由紀夫の作品と生涯をモチーフとして東京バレエ団のために創作した大作の再演。10年ぶりの再演で主要な役がほぼすべて入れ替わったが、演技の高い水準を維持し、バレエ団として作品を見事に受け継いで、三島の没後50周年を記念する上演を成功させたことが高く評価された。

<受賞者コメント：団長 飯田宗孝>

この度の栄えある受賞を心から感謝申し上げます。「M」は20世紀最高の振付家であるモーリス・ベジャールが、東京バレエ団のために創作したオリジナル作品で、当団の大切なレパートリーです。今回、ほぼすべてのキャストを刷新しましたが、東京バレエ団の新しいメンバーによる上演が評価されて、今回の受賞につながったことを大変嬉しく思っております。上演にあたり、ご指導いただきました「M」の初演メンバーの皆様にも、この場を借りまして深く感謝申し上げます。



写真:Kiyonori Hasegawa



写真:Kiyonori Hasegawa

### 芸術祭優秀賞(関東参加公演の部)

#### 藤間 紋

##### 「紋の会」の成果

自身の振付による奏風楽『千代女四季』が高い評価を得た。同作は加賀千代女の句にその人生を重ねたもの。二部構成により「夏の森」では女の一人旅と旅先の風物や風情を、「冬の雪」では孤独の身となり、再び俳諧の道に戻る姿を的確に描き、千代女の人生の苦悩と心情をよどみなくまとめあげた。技術の確かさが感じられる端正な舞台であった。

<受賞者コメント>

思いがけず優秀賞を頂戴し誠に光栄に存じます。亡き駒井義之先生から「千代女四季」を頂きましたお蔭と存じます。今回はこの作品を新たな視点での振付、表現等で上演しましたが、これをご評価頂きまして大変有難く思っております。また「鐘の岬」と2作品に対するスタッフのご協力、ご支援に感謝申し上げます。今後とも舞踊と新しい作品作りに精進して参りたいと存じます。



### 芸術祭優秀賞(関西参加公演の部)

#### 京都芸術大学 舞台芸術研究センター

##### 「市川猿之助 藤間勘十郎 春秋座花形舞踊公演」の成果

市川猿之助と藤間勘十郎が、澤瀉屋の家の芸である三作品に挑んだ公演。『檜垣』では勘十郎が檜垣の老女の情念を描き、『黒塚〜月の巻より〜』では猿之助が無心に踊る老女岩手を体現した。『悪太郎』では悪太郎の猿之助と智蓮坊の勘十郎が、新演出でユーモラスな作品世界を明朗に展開。両者が力量を発揮し、秋の情緒が感じられる完成度の高い舞台を繰り広げた。

<受賞者コメント：京都芸術大学 舞台芸術研究センター 一同>

市川猿之助さんと藤間勘十郎さんの類まれな技量とエンターテインメント性に感服するばかりです。この栄誉は、ひとえにお二人のご熱演と、共演の市川猿弥さん、中村鷹之資さんと後見の方々、演奏の長唄、清元、琴、尺八、鳴物の皆さまのご奮闘と、スタッフの総力を挙げての成果と深く感謝申し上げます。



猿翁十種の内『悪太郎』岡村柿紅 作  
左から、修行者智蓮坊=藤間勘十郎、悪太郎=市川猿之助、太郎冠者=中村鷹之資、伯父安木松之丞=市川猿弥

# 令和2年度(第75回)文化庁芸術祭賞贈賞理由

## 舞踊部門

### 芸術祭優秀賞(関西参加公演の部)

#### 舞踏カンパニー倚羅座

##### 今貂子舞踏公演 「金剛石-Diamond-」の成果

舞踏には土方巽以外に明瞭な技法がないとの認識があるが、今貂子は固有の技法を確立しつつあるように見受けられた。細胞すべてが「成る」に参加し、そこに立ち続け「金剛石」に込めた「屈服しない」「硬質」等のイメージを展開。動き・身体・空間・音・照明等が一体となり「虚のリアル」に満ちた舞台となった。

<受賞者コメント：代表 今貂子>

困難が続く中、生の芸術の火を消してはいけなくて0から作り上げた公演を高く評価して頂き、大きな希望を感じています。60年前、日本人による初めての現代舞踊として発生した舞踏は、社会の中で益々とその力を開放し、様々に作用をもたらす芸術として発展すると信じております。受賞を励みとしてこれからも精進してまいります。



### 芸術祭新人賞(関東参加公演の部)

#### 三東 瑠璃

##### 「Where we were born」の成果

人間の存在そのものである身体を凝視し、追求する作品に挑んできた三東瑠璃が、アンサンブルに振付けた本作で高い成果をもたらした。ダンサーたちが群れとなり、塊となって生命の根源を探ろうとする振付を考案し、緊張感みなぎる完成度の高い公演に結実させた指導力、演出力は高く評価できる。今後益々の活躍が期待できる。

<受賞者コメント>

この度は、新人賞という名誉ある賞を頂戴し光栄に思います。関わってくださった全ての方へ、この喜びとともに感謝を申し上げます。私にとって創作は、人生の中で何よりも愛おしく幸せで特別な時間です。本番までのプロセスが私の宝物です。この時間がずっと続いてほしいと思います。今後も、創作活動により一層没頭し多くの方に作品を観ていただけるよう、そして皆様に愛される作品を発表できるよう努力してまいります。



写真:山崎優也

### 芸術祭新人賞(関西参加公演の部)

#### 吉村 奈尾

##### 「かりがねの会」の成果

二つの演目「寿三番叟」「珠取海士」に「水」の糸を通した舞い手は、穏やかであれ激しくであれ、水が流れるように気持ちと動きを持続させていた。跳ねや溜めを熟す筋力、緩急や高低差を操る技術力、情景や情動を起す表現力もさることながら、吉村奈尾の舞いの独特な質感、見る者の体に残るその妙な感覚の響きは、新しい舞踊世界のあらわれをも予感させる。

<受賞者コメント>

この度は、栄えある賞を賜り、まことに身に余る光栄でございます。ひとえに、師匠のご指導と諸先生方や周りの方々のお力添えの賜物と実感致しております。コロナ禍にも関わらず舞台を支えてくださったスタッフの方々、関係者の皆さまに、心より厚く御礼申し上げます。この度は、誠にありがとうございました。



芸術祭大賞(関東参加公演の部)

京山 幸枝若

「京山幸枝若独演会」の成果

上方浪曲の第一人者である幸枝若が、実父で師匠の初代幸枝若から受け継いだお家芸にさらなる磨きをかけ、東京の舞台で披露した。軽快な幸枝若節で演じる、名人・左甚五郎の苦心談「千人坊主」と、ひ弱な若侍が知恵と度胸で悪を討つ「破れ太鼓」の2席は、痛快無比の面白さ。近年、若手の台頭で盛り上がる浪曲界を象徴する力演だった。

<受賞者コメント>

とにかく賞に縁が薄いものですから素直に喜んでおります。17歳で浪花節の世界に飛び込み、それ一筋でやってまいりました。浪花節のお蔭で芸人らしい生活を送ることが出来ました。その恩返しの念で高座に立ち、後進の指導にあたる毎日です。私は昔の修業をした芸人ですが、昔の指導方法では時間が掛り過ぎて今の若手は育ちません。若手が学びやすいように、教える側が努力することも今の時代には必要だと思っております。今後とも浪花節と浪曲師を宜しくご後援下さい。



撮影:宮岡里英



撮影:宮岡里英

芸術祭大賞(関西参加公演の部)

林家 染二

「林家染二独演会」における「中村仲蔵」の成果

いつもの熱量あふれる爆笑型から軸を移し、夫婦と師弟の絆に力点を置いた「中村仲蔵」の一席。不遇な配役をされて落胆する仲蔵の背をそっと押して励ます妻のセリフに情熱があふれ、役柄のヒントを得て舞台成就までの筋運びに持ち前の強い声が生きてこの物語を描き切った。上方の香りを乗せたハメモノと浄瑠璃の演出も成功、力量の高さを示した。

<受賞者コメント>

この度大賞を受賞させていただきましたこと、衷心より御礼申し上げます。平成9年の初参加から23年。平成16年の二度目の優秀賞受賞から16年。毎回新たな構想を練り、研鑽を重ねては未熟さを知り、大きな糧をいただきました。芸能の起源は祝祭の華やぎです。コロナ禍が終息し、全世界の人々に笑顔の時が戻ることを願っております。



撮影:佐藤浩



撮影:佐藤浩

芸術祭優秀賞(関東参加公演の部)

桂 竹丸

「桂 竹丸 落語会」の成果

2席のうちトリで演じた「明智光秀」は、主君織田信長を討った武将を軸に戦国の乱世をギャグ満載で語る地噺だ。歴史への批評的な視点を巧みに織り交ぜながらの、軽快な語り口が心地いい。高座を重ねて練り上げてきた噺に完成度の高さが認められた。新作落語の爆笑派として着実に安定感を増し、無比の世界を築いている。

<受賞者コメント>

今回の受賞、誠に有難うございます。この吉報に感謝すべきは、先ず師匠米丸、柔軟な考えの指導の賜物。そして母親、劣等生のバカ息子に与えた一冊のマンガ本。その中の「マンガ日本の歴史」にカルチャーショック!それがこの度の「明智光秀伝」に繋がったわけです。多くの人達に支えられた受賞に、心から御礼申し上げます。



芸術祭優秀賞(関西参加公演の部)

月亭 文都

「第24回月亭文都独演会」の成果

「月宮殿星都」「帯久」そして新作「戯作者の恋」という趣向の異なる三席を丁寧に演じ分け、ネタの構成と巧みな話術ともに圧倒的な完成度を示して観客を魅了した。とりわけ善人の泉屋与兵衛に重点を置いた「帯久」は、演者の人間性を表わすかのように心あたたまる人情噺に仕立て上げて、古典落語のさらなる可能性を示した点においても見事だった。

<受賞者コメント>

文都襲名後、二回めの芸術祭参加となった本公演の副題は「Mission Impossible」一映画のタイトルさながら現在(いま)の自分に課せられた極めて難解な使命でした。令和二年、コロナ禍で苦境を強いられた中、齢六十を迎えましたが、この度の受賞は最高の還暦祝いとなりました。いつも激励して下さる我が師匠に一番に報告しましたところ、大変喜んで頂きました。これを機により一層精進して参ります。



芸術祭新人賞(関東参加公演の部)

澤 雪絵

「Soul of 浪花節 澤雪絵の会」の成果

廣澤菊春から澤孝子そして、澤雪絵へとの副題に沿い、菊春ゆかりの「姿三四郎恋暦」、師匠・澤孝子の助演を挟み、師から継承の「春日局」を朗々と口演した。邦楽向けの会場の選択も効果的で、ベテランの曲師の三味線でも、寄席と一味違う空間を作った企画性が功を奏した。一方で、声質を磨き聴かせるだけでなく、心への響きがもう一つ欲しいという審査会での評があったことを加える。今後の目標として奨励の意を持つての贈賞である。

<受賞者コメント>

大衆芸能部門に於いて栄えある新人賞を受賞出来ました事を心より厚くお礼申し上げます。師 澤孝子、曲師の師匠方と共に真摯に芸と向き合ってきた節目の会を評価頂き、浪曲の神様も見て下さっていたのだと感謝しております。お力添え頂きましたお客様、スタッフへの感謝を胸に今後も挑戦を重ねて努力精進をまいります。



芸術祭新人賞(関西参加公演の部)

笑福亭 喬介

「おたから喬介」の成果

入門16年目にして初の自主開催の独演会で、大師匠の故・六代目笑福亭松喬、師匠の七代目笑福亭松喬から受け継いだ「牛ほめ」「佐々木裁き」「へっつい幽霊」の3席を選び、入れ事を加えず演じる姿勢を貫きつつ、喬介らしい突き抜けた明るさなどを随所々にみせて好演を見せた。日頃の研鑽が大いに感じられる高座で、一層の成長が期待される。

<受賞者コメント>

この度は、輝かしい賞を頂戴し光栄に思います。何より師匠から教わった落語「牛ほめ」「佐々木裁き」「へっつい幽霊」で評価して下さったのはとても嬉しいです。賞を取って終わりではなく、これからは賞を取った落語家として自分の落語に磨きをかけて、自分らしい落語を作り上げ、また新しい演目に挑戦しこの賞に恥じぬよう落語に邁進していきたいとおもいます。



## 令和2年度(第75回)文化庁芸術祭賞贈賞理由

### テレビ・ドラマ部門

#### 芸術祭大賞

##### 日本放送協会

###### スペシャルドラマ 「ストレンジャー ～上海の芥川龍之介～」

芥川龍之介が見た百年前の中国という歴史的でユニークな視座に作り手の志を感じる。静謐に人物を凝視する加藤拓の演出、8K技術をもって厚みのある顔表情を表現した北信康の撮影、芥川の紀行文をもとに洒落な断章の物語を構想した渡辺あやの脚本、飄々と芥川を演ずる松田龍平の演技などスタッフ、キャストの技術が高度な調和を果たした。

<受賞者コメント：演出 加藤拓>

ドラマ撮影時に体験した中国の活力と喧噪は今も鮮明に記憶の中にあります。芥川龍之介と同じく我々もまた中国映像界へのストレンジャーであり、活気に満ちた日中のコラボレーションはとても充実したものでした。この度は大変光栄な賞をいただきスタッフ一同深く感謝申し上げます。これからも新しい挑戦を続けたいと思います。



#### 芸術祭優秀賞

##### 株式会社CBCテレビ

###### 「スナイパー時村正義の働き方改革」

コロナ禍の本年は「制約」というものから芸術が生まれることを改めて考えさせられたが、本作はコロナ禍とは関係なく「制約」を自らに課す。場所は一箇所、登場人物二人、出道具はスコープ付狙撃銃とノートパソコンだけ。それで巨大な予算と人を投入した大アクション場面に視聴者に想像させる。脚本・演出の知恵と腕に感服させられた。

<受賞者コメント：総合編成局コンテンツ戦略部 尾関美有>

東海地方の深夜ドラマをこうして評価いただき光栄です。突飛な設定だからこそ重視すべきリアリティや1場所2人芝居という挑戦を楽しんでくれたスタッフ・キャストの皆さんにこの場を借りて感謝申し上げます。制作中は、テレワークという言葉がこれほど急速に世に浸透するとは思っていませんでした。この賞を励みに、この時代と共に生きる作品を、発想とアイデアで作っていきます。



#### 芸術祭優秀賞

##### 関西テレビ放送

###### U-NEXT presents「あと3回、君に会える」

ふだん意識せずに過ごしていても、家族や知人との別れは突然訪れることがある。もし、一生にあと何回会えると前もってわかっていたら、その人との時間をどのように過ごすか。会える回数が背中に浮かび上がるとの設定はSF的だが、登場人物の心情変化を丁寧に描くことで、人と人の出会いの意味を考えさせられるドラマだった。

<受賞者コメント：プロデューサー 重松圭一>

この度は栄誉ある賞に選出いただきありがとうございます。2年前このアイデアを大島先生から聞いた時、素晴らしいと直感したと同時にあと3回しか先生に会えなければこのドラマは実現できないと驚愕しました。結局30回以上会いました。コロナが猛威を奮う今、このドラマの意味が深く感じられます。山本美月さんをはじめ出演者の皆様、萩原監督をはじめスタッフの皆様、あらゆる面で支えて頂いたU-NEXTの皆様に感謝いたします。本当にありがとうございました。



#### 芸術祭優秀賞

##### 日本放送協会

###### 「完本 怪談牡丹燈籠」

三遊亭圓朝が作り上げた陰鬱な世界が見事に映像化された。神田松之丞(現在は伯山)の語りで見ると人を一気に引き込み、愛憎と欲望に満ちた人間の業をまざまざと見せつける。VFXなどの映像技術、音楽、音響も怪談の再現に効果を上げ、全体的な完成度が非常に高い。上質なドラマならではの充足感を与えてくれる秀作である。

<受賞者コメント：オッティモ脚本・演出 源孝志>

『牡丹燈籠』は『四谷怪談』と双璧をなす怪談ですが、その怖さにおいてはどうしてもお岩さんに軍配が上がる。お岩は人間の悪意や欲が作り出したモンスターで、焦がれ死にしたお露は純粋すぎるからか？物語全体ならよほど『牡丹燈籠』の方がドロドロとして恐ろしいのに……この長大な物語の完全ドラマ化を思い立った理由はそれです。支えてくれたスタッフ・キャストに感謝です。



## 令和2年度(第75回)文化庁芸術祭賞贈賞理由

### テレビ・ドキュメンタリー部門

#### 芸術祭大賞

##### 株式会社新潟放送

###### BSNスペシャル 「芸術の価値 舞踊家金森穰16年の闘い」

新潟市民芸術文化会館専属の個性豊かでパワフルなダンス集団「Noism(ノイズム)」を率いる世界トップクラスの振付家・金森穰の活動を追いかけた。文化支援の社会的意義と行政の関わり方を問いかける。芸術家たちは地域にどのような貢献をすべきなのか、金森の試練は続く。「芸術」が目に見えない大きな力を与えてくれることを信じ、応援したい。

<受賞者コメント：情報センターテレビ制作部 坂井悠紀>

栄誉ある賞を頂戴し望外の喜びです。国内唯一の公共劇場専属舞踊団Noismを率いる金森穰氏は文化芸術に“不寛容”な社会と闘っています。劇場を拠点に真の地方分権を目指す希代の舞踊家一。覚悟を持って取材に挑みました。新型コロナウイルス禍での社会変容、地方局の果たすべき役割を自問し続け、今後も精進して参ります。



#### 芸術祭優秀賞

##### 関西テレビ放送

###### 「ザ・ドキュメント 裁かれる正義 検証・揺さぶられっ子症候群」

乳児の孫を虐待死させたとして懲役5年6か月を受けた67歳の女性が、無罪を勝ち取るまでを追う執念のドキュメンタリー。有罪の決め手は虐待専門医の証言による「揺さぶられっ子症候群(SBS)」。しかし別の疾患の可能性を指摘する内外の脳神経専門医の証言を得て、控訴審で覆す。弁護士、家族と共に死因に疑問を持ち、真相を追い続けた報道の役割も考えさせる力作。

<受賞者コメント：ディレクター 上田大輔>

番組制作を振り返ってあらためて感じるのは、人間の思い込みの怖さです。赤ちゃんの症状から「死因は成人による激しい揺さぶりである」と診断された結果、「1時間半だけ孫を預かっていた祖母が暴力的に揺さぶることが現実的にあるのか？」という誰もが思い浮かぶはずの疑問が捜査過程で消えていきました。専門家さえも先入観からは逃れられない現実はどう立ち向かえるのか。頂いた賞を励みにして、残された課題に向き合っていきたいと思っています。



#### 芸術祭優秀賞

##### 日本放送協会

###### BS1スペシャル「レバノンからのSOS ～コロナ禍 追いつめられるシリア難民～」

悲惨な実態は想像をはるかに超え、見る者を圧した。背景を明解に説明した後、カメラはテントの中に入り込み、臓器売買の目的で兄を誘拐・殺害された少女などに密着する。被取材者への肉薄ぶりが見事だ。貧困、差別と排斥、DVなど負の連鎖は、弱い方に皺寄せがいく。コロナ禍に見舞われた今年の縮図とも言え、その究極の姿を訴えた。

<受賞者コメント：椿プロ 金本麻理子>

シリア難民の取材中にコロナ禍に遭遇し、目の当たりにしたのは追いつめられる弱い立場の女性や子供達でした。今、ともしれば世界から忘れられがちな難民の人々の現状、そして苦境の中でも生き抜こうとするその強さを少しでも伝えることが出来たならば嬉しく思っています。“彼らを忘れてはならない”と改めて心に刻みました。



#### 芸術祭優秀賞

##### 日本放送協会

###### NHKスペシャル 「アウシュビッツ 死者たちの告白」

ナチス・ドイツ最大の殺戮施設アウシュビッツ強制収容所。そこにユダヤ人特殊部隊「ゾンダーコマンド」がいた事は、あまり知られていない。収容所跡の地中から見つかった瓶や箱に入っていた“謎のメモ”。最新デジタル技術によって解読が進む“謎のメモ”を元に、「ゾンダーコマンド」の葛藤や苦悩、そしてその後迫った秀作である。

<受賞者コメント：ディレクター 吉岡英由紀>

番組の主演はアウシュビッツ強制収容所跡の地中から発見された“謎のメモ”です。解読作業の末に見えてきたのは、自らの運命と引き換えに同胞の大量虐殺に手を貸した人々の告白でした。「人は自らが生き延びるためにどこまで残酷になり得るか」—そのメッセージを私たちは真摯に受け止めなければならないと感じています。



芸術祭大賞(ドキュメンタリーの部)

南海放送株式会社

「感染—正義とは何か—」

新型コロナウイルス感染拡大で、感染への恐怖から根拠のない誹謗中傷や差別も拡大していった。感染者への困難な取材を通して、正義の名の下での差別的酷さを見事に描き出した。四国「お遍路」と感染症の関わりを歴史的にたどることで、現在の横軸と歴史の縦軸を交差させる画期的なラジオ番組であり、ラジオ史に残る最高傑作。

<受賞者コメント：ディレクター 植田竜一>

身に余る賞をいただきまして感謝申し上げます。すっかりこの1年で平然と人が人を疑う世の中になってしまいました。正直ウイルスよりも人の方が怖いと感じる時があります。自分を守るために無自覚で他者を攻撃する。歴史を振り返っても感染症と差別や誹謗中傷は不可分の関係にあると思います。「その歴史は新型コロナで最後にしたい」という思いだけが、この番組を制作するモチベーションでした。今後も微力ながらも感染症の負の歴史を変えるために全力を尽くしていきます。



芸術祭優秀賞(ドラマの部)

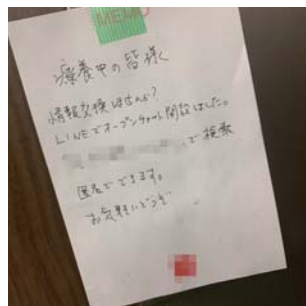
株式会社エフエム東京

「TOKYO FM特別番組 Positive～コロナとホテルとラインチャット～」

コロナの陽性(Positive)経験をココロのPositiveに変容させる試みに挑戦した番組。隔離ホテル内のLINEで交わされる会話を軸に、当事者だけが知り得る様々な葛藤のディテールを如実に描き、軽やかな手法で課題を投げかける。制作者の実体験に基づいた素直な演出が功を奏し、若者への訴求も期待できる、時代を映し出す秀作である。

<受賞者コメント：番組プロデューサー 増山麗央>

隔離された空間で一番欲しかったものは、「情報と共感」でした。当事者にしかわからない悩みや喜び、辛さや苦しみを匿名チャットで分かち合うだけで、随分心が落ち着きました。誰もが陽性(POSITIVE)になってもおかしくない状況だからこそ、気持ちをポジティブにして、この難局を乗り越えることの大切さを伝えたいと思います。



芸術祭優秀賞(ドラマの部)

日本放送協会

FMシアター「ほぞ」

明治時代を背景に、若年性認知症になった指物師 基一と、その妻タエの夫婦物語。タイトルの[ほぞ]とは、板と板をつなぐ凸凹のこと。寄り添う夫婦をほぞに見立てた脚本だが、「妻が良い人過ぎるのでは？」等の意見は出たものの、主演の和田正人・伊藤歩の演技に目を見張るものがあり、ラストが心打ち、今回の受賞となった。

<受賞者コメント：演出 東山充裕>

この度は名誉ある賞を頂き誠にありがとうございます。ドラマのテーマは「たとえ認知症になっても、居場所(役割や生き甲斐)があり、支えてくれる人がいれば幸せになれる」でした。これは認知症に限らず、様々な苦しい状況にある方々に通じることだと思います。今後も作家・俳優・スタッフが力を合わせ、皆様の希望となる作品を作るべく精進して参ります。



芸術祭優秀賞(ドキュメンタリーの部)

日本放送協会

ラジオ特集「虐待された少女たちの“その後”」

コロナ禍、家庭が必ずしも子どもの安心できる場所ではないことが社会問題として認識された。親に殴られる日常が「普通」だった少女が語る現実、聞き手がうろたえるほどに壮絶だ。少女を中心に周囲の状況を率直に丁寧に描いている。このような問題提起が今後も継続して行われることへの期待も込められた高い評価である。

<受賞者コメント：NHK北九州放送局 アナウンサー 藤重博貴>

大変名誉ある賞を頂き光栄です。番組が多くの共感を得たのは、虐待の実態を語ってくれた少女たちと、彼女たちを絶対に見捨てず更生へ導く工藤夫妻の姿から、私たちが見落としてきた社会のひずみを感じ取るからではないかと思っています。コロナ禍の今、改めて愛情とは何かを考える手がかりとなれば嬉しいです。



芸術祭大賞

公益財団法人 日本伝統文化振興財団

「雪墨 YUKISUMI/藤本昭子 佐藤允彦」

地歌箏曲とピアノという異次元の組合せでありながら、綿密な計算と豊かな感性によって新たな世界を見事に提示した。「手付」ともいえる佐藤允彦の優れたピアノパートの作曲とそれに呼応する録音、そこに藤本昭子の確かな歌と効果的に控えられた三弦という足し算と引き算の妙によって、ゆるぎない地歌の真髄を際立たせることに成功している。

<受賞者コメント：理事長 藤本草>

「古典の覚醒」をテーマに藤本昭子(歌・三弦・箏)が企画、佐藤允彦(作曲・ピアノ)とのデュオで古典の真価と可能性に新たな角度から光を当てた作品です。新雪に落ちた墨が滲むように「古典と現代」「様式と自由」など対極にあるものが出会い、その輪郭が溶融した果てに本来の姿が浮かび出ることをイメージして名付けられた『雪墨』を、世界中の方々に届けたいと願っています。



芸術祭優秀賞

株式会社ヤマハミュージックコミュニケーションズ

「バッハ・シークェンス/須川展也」

サクソフォンという19世紀半ばに開発された「後発楽器」は、バロックからロマン派の傑作の宝庫を横目で睨むしかなかった。須川展也はバッハの畢生の傑作「無伴奏ヴァイオリン・パルティータ」3曲に挑み、この楽器の新しい地平を開拓した。超絶技巧に驚くと共に、バッハの偉大さ、そしてそれを演奏する須川の喜びが溢れた1枚。

<受賞者コメント：須川展也>

この度は大変光栄な賞を頂きありがとうございます。長い時間かけて構想した、バッハをサクソフォーンで演奏しバッハの魅力で皆さんと繋がりたい、という想いが、この作品で実現できました。エンジニア、ヤマハミュージックコミュニケーションズ、コンサートイマジンのスタッフ達と一体になって作った宝のCDです。これからも精進して参ります。



芸術祭優秀賞

有限会社コジマ録音

「アイヴズ:ヴァイオリンとピアノのための4つのソナタ/ROSCO」

アメリカ合衆国の近代を代表し、ヨーロッパ的な形式感に厳格に縛られることなく、国の風土や生活感を感じさせながら自由奔放に創作した作曲家の全4曲のヴァイオリン・ソナタを、ヴァイオリン、ピアノともに強い表現意志を保ちながら緻密なアンサンブルで演奏。各曲の構造や楽想の面白みをあらためて発見させてくれる録音である。

<受賞者コメント：コジマ録音 一同>

この度は栄えある賞を頂き、心より御礼申し上げます。本賞受賞は何よりもROSCO(甲斐史子、大須賀かおり)両氏の卓越した演奏の賜物です。また、破格のライナーノートを執筆された米山高生、夏田昌和両氏、版画家の松本里美氏、デザイナーの長澤均氏、そして全体の企画制作を担われたプロデューサーの山内恒人氏に御礼申し上げます。今回の受賞を励みに、弊社も更なる音楽文化の発展に貢献する所存です。



芸術祭優秀賞

山田 岳

「melodia」

アコースティック・ギターとエレクトリック・ギターをどちらも弾きこなす山田岳が、水先案内人としての力量を存分に発揮したアルバムである。現代音楽の複合的な様相を、鋭敏な感性のアンテナで捉えた選曲が新鮮で、混濁した音群やノイズを交えた類稀な音響世界を確かな技術で伝える。思わず聴き入ってしまう一枚だ。

<受賞者コメント>

この度は栄えある授賞を賜り、誠にありがとうございます。ギターという楽器と、奏者である自分自身というフィルターを通して多様な音楽世界を映し出したいという思いで制作したアルバムでしたので、その点を高く評価いただけたことは何より嬉しく思います。関わっていただいた全ての方々に深く感謝するとともに、これからも一層の研鑽を重ね、活動に精進したいと思います。

